

第8章 にしあいづ物語100選活用事例

西会津町歴史文化基本構想等策定の目的は、西会津町内に所在する文化財を総合的に捉え、積極的な保存及び活用を図り、歴史及び文化を活かした地域づくりに資することである。「地域づくり」とは、過疎化で往年の元気を失っている地域が再び活気を取り戻し、生き生きとなることと捉え、そのためには次の2点が重要である。

1. 心の豊かさで元気

活気ある地域は、そこに住む人々がこの地で生きる自分と郷土に誇りを持っており、自主的に活動を立ち上げ衰退していた郷土の伝統を復活させたり、新たな活動に取り組んだりしている。また、ツアーやイベントなどで地域を訪れる人々の姿を見たり、その理由を知ることで改めて地域のこと興味・関心を持ち、「(仮称)にしあいづ歴史文化の館」などで町の歴史や文化財などに触れ郷土の先人たちに思いを馳せることは、郷土への愛着と自主的な活動へと発展することにつながる。

2. 交流人口の増加で元気

にしあいづ物語100選や自然的環境などを基に、地域の人々や観光交流協会などが町内ツアーやイベントを企画・立案し、来町者を増やすことは、町を活気づけることになる。

本章ではまだ関連群的な考え方になっていないが、1つ1つの物語で構成されている「にしあいづ物語100選」をどのように活用して、上記2点のねらいをこれまで達成しようとしてきたのかを記す。

第1節 心の豊かさで元気

「にしあいづ物語100選」の内容を、まず、地域の人がよく知ることが望まれる。そのために「にしあいづ物語100選講座」を開催し、その説明をする「語り部」を育成していかなければならない。地域の歴史や文化財などを知ることで、それに似ている物が他にもあるという具合に、まだ多くの人に知られていない新たな事柄に日の目が当たり、地域の大歴史文化遺産を増やすことが可能となる。

高齢化・過疎化して往年の活気を失ってしまった地域の人々が、このままではこの地域が一層衰退してしまうという危機感と郷土への愛着などから再び郷土に活気を取り戻すべく立ち上がった地域がいくつもある。その一例として、奥川の出戸集落の「岩屋さま」や極入集落の「お聖天さま」の祭礼復活がある。地域の人々が力を合わせて山道や建物の補修・整備に取り組み、地域とそこに住む人々に活力がよみがえりつつある。

また、町外の人々がツアーなどで地域を訪れる姿を見て、今まで何もない所と思っていた地域を見直すきっかけになるとともに、普段は人気のない通りを歩く人々がいるということが地域に活力の空気を運んでくるものである。

「(仮称)にしあいづ歴史文化の館」が整備され、町内外の人々がその館を訪れ、歴史・文化等にふれることができるようにすれば、歴史は一部の人々によって作られたのではなく、名もなき無数の人々

が下で支えていたことを知ることができる。私達は郷土の先人たちの苦労と努力を感じ取り、この地に生きることの誇りを持たなければならない。そうすることができれば、たとえ過疎地であろうとも心豊かに暮らすことができるのではないだろうか。心が豊かであれば自ずと元気が湧いてくるものである。

第2節 交流人口の増加で元気

「にしあいづ物語100選」をもとにツアーやイベント等を行うことで交流人口を増やして地域が元気になるもので、地域の人の主体性の度合いから次の4つに区分した。

1. 地域の人が中心となってツアーやイベントを企画・立案・実施する。

地域の有志や地区全体が主体性を持って実施するもので、最も望ましい姿である。

【例示1】

☆萱本集落の人形送り（萱本集落有志）

☆：すでに実施しているもの

★：今後実施してみたいもの

本来は2月4日当番の家に子ども達が集まり、刀などを差した藁人形を作り、雪の道を鉢をたたきながら、「ニンギョウサマのおおくりだ」と大勢で唱えながら村はずれまで送り、「サデ(稻架)」の上に結び立て、村に悪疫が入ってこれないよう監視、退治する魔除けの神であり、昭和32年まで行われていた。

平成10年度に自治区の組織として、「ふるさとおこし実行委員会」が設立され、郷土愛と地域を認識する心を育むとともに忘れかけている文化遺産を継承するため、地域の調査伝承や集落史の編さんに取り組んだ。初年度は「人形様送り」の復活を企画し、以前県立博物館の企画展に提供した人形様を手本に、藁人形様を作成、村の入口2ヶ所に専用のサデを作り、集落総出で人形様送りを復活させた。翌年からは享保17年(1732)に寄進された手作りの大数珠を用いて百万遍も復活。以来毎年続けている。

現在は2月11日の建国記念の日に、集会所で午前中に人形様を作り、午後集落内を回って人形様送り、その後百万遍の行事を行っている。この日は、普段離れて暮らしている出身者や孫も集まり、少子化が進んだ集落にも子供の声が聞こえる。今まで民俗学者などが調査に来たことがあるが、会津でも少ない行事になっているので、ぜひ周知を図り来訪者を迎えてほしい。



萱本集落の人形送り

☆歳の神(町全域)

1月。藁・門松・お札などを芯木に巻き付け燃やし、御幣の燃え方で作柄を占う。この火で焼いた餅などをたべると長生きし、厄年の者は胴上げをしてもらうと厄から逃れられる。

☆冬の富士山スノートレッキング(西会津富士の郷・寺前自然塾)

2月。残雪を踏み締めてかんじきやスノーシューで登る。下山時はお尻滑りが楽しい。

☆飯谷山トレッキング(小杉山地区有志)

3月。残雪の飯谷山を登ると遙かに飯豊連峰、眼下には会津大地震で一村が埋没している白沼が見える。

☆小屋のかたくり鑑賞会(小屋地区有志)

4月。昔、木材を搬出した軌道を進むと、清楚に咲くかたくりに出会う。

☆須刈岳山開き(須刈岳山開き有志会)

4月。手軽に登れ、山頂からは両野尻の街並み、阿賀川、奥に高陽山と飯豊連峰の奥行きのある眺望が楽しめる。

☆高陽山山開き(高陽山に登ろうよ隊)

5月。一直線に登る山で、山頂からは飯豊連峰南面がパノラマのように一望できる。

☆鏡山山開き(西会津山の会)

5月。山頂からは、種蒔山・本山・御西岳・牛首山へと展開する飯豊回廊の大展望台。指呼の近さに迫る山容は圧巻。

☆戸中の菜の花まつり(寺前自然塾)

5月。一面の菜の花に埋もれトランペット演奏や撮影会もある春の一時。

☆安座おとめゆりまつり(安庄村おこし有志会)

6月。龍ヶ岳山腹に人知れず可憐に咲くおとめゆり群である。

☆富士山山開き(西会津富士の郷・寺前自然塾)

7月。富士山信仰の山で頂上には富士権現の祠があり、「胎内くぐり」といって、祠の下を3回くぐると生まれ変わると言われている。

☆極入のお聖天さま祭り(極入地区有志)

8月。昔から近郷近在の厚い信仰があった祭りであるが、一時途絶えたのを有志が復活させた祭り。

☆出戸の岩屋虚空蔵菩薩祭り(出戸地区有志)

9月。2人の聖が山深い岩窟内に籠もり、修行を重ねながら3体の仏像を彫った。その虚空蔵菩薩の祭り。

☆新そば祭り(奥川地区有志・橋屋地区有志・安庄村おこし有志会)

11月。地区の有志が手打ちそばを安価で振る舞うもので、人気急上昇中。橋屋地区はそば蒔きとそば打ちの講習会も行っている。

☆百万遍(山浦・尾野本)

2月。地区の人が集会所に集まり、大きな数珠をみんなで回しながら念佛を唱える。房のところが回ってくるとお辞儀をする宗教的行事である。

☆西会津ぐるっと山ネットワークの活動

西会津町の山や峠の魅力を多くの人に知ってもらうため、ツアーや発表会等を開催している。

2. 来町者が地域の人とともに活動を行う。

企画・立案から行うものと活動から行うものとに区別されるが、共通点は来町者と地域の人が一緒に作業や活動を行うものである。山・田・畑などの作業や料理・スイーツづくりなどから山菜・きのこ採り、昔のかごなどの道具づくりなどと幅広く、地域の人が先生となって共同で活動するものである。

【例示 2】

☆田植えから稲刈りまでの米づくり体験

奥川地区に縁のある子ども団体の田舎体験の一つで、田植えや稲刈りなどの作業を地元農家の人の指導を受けて実施し、米づくり体験をしている。



子どもたちとの農業体験

☆杉林枝打ち体験(天空の郷)

杉の枝打ちを今の機械を使ったやり方と昔ながらの鉈でのやりかたを枝打ちベテランから教えてもらう。

☆奥川の自然で遊ぶ体験(奥川地域づくり会議)

土地の人が子供の頃に遊んだ小河川での小魚やカニなどの捕まえ方などを教えてもらったり、小さい滝で遊びながら自然と一体化。

☆山菜採り体験(長桜自治区)

ワラビ園でのワラビ採りや野辺での山菜について教えてもらい、自然保護の方法も学ぶ。

★かご・かんじき作り体験

昔、農作業や山仕事などに使っていた籠や冬のかんじきなどの作り方や使用法などを教えてもらう。

★郷土料理・漬物づくり体験

独特的な郷土料理や漬物の作り方を教えてもらい、今の食生活をともに話し合う。

★郷土の素材でスイーツつくり体験

ちょっと変わった素材でスイーツをつくり、昔は何でもあるものをうまく使って作ったことなどを話し合う。

★キノコ採り体験

山に入って実際にキノコの種類やある場所等を教えてもらい保護の仕方も学ぶ。

3. にしあいづ観光交流協会と共にツアーを実施する。

企画・立案は主として観光交流協会が行い、準備・当日の案内等は地域の人が行うもので1、2のように主体性がまだ完全に持ち切れていない。

【例示3】

☆男滝・女滝シャワーウォーク

7月。修驗道の修行の場であった滝を訪れるツアーで、昔は川に入らず崖道を歩いていたが現在は道が崩れ歩けないので川(鬼光頭川)を歩いて行く。通常は浅い川である。滝は同一の場所に2つあり、50mの高さから一気に落ちる滝が男滝で、昔は行滝おこないたきと言って滝の内側に不動明王が奉られており、行者が滝に打たれて修行したものと思われる。45mの岩肌を緩やかに流れ落ちる滝が女滝で、昔は大滝と呼んだ。滝ができたのは玄武岩質の岩石にできた柱状節理によるもので見事な滝である。昔は、滝の手前の川原に柱状節理の四角の石が無数に立っていたが、今は立てる人もなく見あたらない。

<コース> 熊沢発—おんば様—鬼光頭川を歩く—男滝・女滝—川を戻る—おんば様—熊沢着

*濡れてもよい服装・靴



男滝・女滝のシャワーウォーク
(写真提供：にしあいづ観光交流協会)

☆越後裏街道花立峠ウォーク

6月。奥川真ヶ沢から小綱木を通り、大舟沢に寄り道して宮古・深沢(喜多方市山都町)に抜ける越後裏街道を歩く。

☆奥川七観音ウォーク

6月。奥川に残る七観音を歩いて巡る。

☆幻の黒沢探検

11月。黒沢鉱山跡地や西会津で初の発電所跡を探索し西方に抜ける旧道も歩く。

★管粥の神事

1月。松尾の真福寺で行われていた1年の米や穀物の出来具合いを占う神事。

4. にしあいづ観光交流協会等のツアーのガイドをする

企画・立案等はせず、依頼を受けて地域のガイドを行うものと西会津町観光ガイドの会主体のものとに分かれる。ガイドの会のものは企画・立案等も行うもので現在、ツアーガイドの中心になりつつある。

【例示4】

☆野沢宿ぶらり散歩

越後街道三大宿場の1つであった野沢宿の面影をたどるツアー。明治42年の大火で宿場のほとんどが焼失してしまい建造物で残っているのは蔵くらいであるが、説明を聞いて当時の出来事や様子を思い起こしながら町中を巡る。

<コース>道の駅発－本海壇・化け桜－常泉寺－荒井館跡・郷蔵・代官所各跡－代官清水－研幾堂－本陣跡－常楽寺－大楓館跡－諏方神社・一里塚－野沢川－道の駅着



野沢宿ぶらり散歩

☆越後街道・越後裏街道ウォーク

春や秋の快適な季節に越後街道やさまざまな越後裏街道を歩く。

☆西会津町宿場巡り

西会津町の宿場のそれぞれの特徴を探りながら往時を偲ぶ。

★修験道探訪

西会津町内の修験道に関連する地を巡り、修験道の様子を探る。

☆西会津の地形・地質ウォーク

野沢盆地の地形や基盤となる地質の断片を探り、大地の雄大な構造を知る。

☆安座の伝説とジオツアー

安座の大沼伝説と地形・地質との関連を探る。

☆子育て地蔵巡り

各地に残る子育て地蔵を巡る。

★会津戦争越後口回想ツアー

越後口の戦いの地を巡り、どのように会津軍は戦ったのか回想する。

★大槻太郎左衛門足跡巡り

大槻太郎左衛門関連の地を巡り、太郎左衛門を思う。

★イザベラ・バード西会津を通る

バードが西会津に入って通過するまでの地を歩き、バードの思いを探る。

★縄文文化にふれるツアー

縄文中期・後期の遺跡を巡り、出土品を見て当時の生活の様子を思う。

★野尻ぶらりウォーク

野尻の歴史を探りながら宿場と川湊の往時を偲ぶ。

★春の奥川ゆっくりウォーク

早春の奥川路を歩き、自然の恵みを堪能する。

第9章 文化財の保存・活用・継承のための「管理・運営マニュアル」の考え方

第1節 地域の歴史文化にかかわる人々と役割

西会津町で保存・伝承してきた文化財やくらしの文化を伝えてきたのは、多くの小さな集落を単位とした住民の日々の営みである。本構想が目標とする「文化財とその周辺環境を含めた総合的な保存・継承・活用の方策」も、主人公としての住民の理解と実行なしには成り立たない。季節ごとに行われる年中行事のある暮らし、ものづくりのある暮らし、昔語りのある暮らし、地域を守り続ける暮らし、農のある暮らし、自然と共生した暮らしなど、地域住民が守り継いできた多様性のある暮らしを基礎とした「地域とともにある暮らしの有り様」を再確認し、日々の暮らしの中で保存・伝承していくことが重要である。

しかし、急激な少子高齢化の進展や過疎化が進み、かつての「地域とともにある暮らしの有り様」を維持することが困難な集落が増加している。

本構想が目指す「文化財とその周辺環境を含めた総合的な保存・継承・活用の方策」を実現可能とするためには、新たな体制整備を行わなければならない。

1. 担い手

指定文化財・未指定文化財の主たる担い手は、有形であれば所有者、無形であれば伝承している人々など、地域住民である。現在でも多くの地域で歳の神などの年中行事は、地区住民が主体となって行われている。このように文化財を知ること、行事を継続することで「地域プライド」が醸成されていくこととなる。

しかし、少子高齢化の進展や過疎化が進み、集落では寺社や里山の維持管理など多くの点で問題が見受けられるようになったが、その中の1つに文化財の維持管理や年中行事の継続が困難となっていることがある。

その対策として、まず従来の対象年齢を設けず、各世代の人々が協力することで年中行事を継続していく集落の自助活動がある。その例として、黒沢集落の虫送りのように、本来子供が主役であった行事が少子化のため継続困難になり、親世代や高齢者が準備等サポートを行い、数少ない子供たちで実施していることがある。

それが難しい、または人材が不足する場合は、地縁・血縁者も含む町外在住者が加わって、文化財を守ったり、年中行事を継承したりすることも考えられる。野沢地区の祭礼では、子どもが少なくなったため、以前は参加できなかった他の地区の子どもたちが応援部隊となり子ども神輿を行っている。また、町では集落機能維持のための集落支援員や、地域の活性化のための地域おこし協力隊を配置しており、担い手不足となっている集落や地区の歴史・文化・行事の復活・継承の支援を行っている。

2. 交流者

前述した例のほかに、本町のような中山間地域への魅力を感じ、地縁・血縁に関係なく町外から年中行事に参加・見学する「交流者」も見受けられる。交流者には、「行事等の担い手の応援者としての役割」と「自分自身が参加・見学することを楽しむとともに、SNSの利用などによって、情報を

発信する役割」が期待され、その結果、さらなる交流者を呼び込む等の効果が見込まれる。

3. 専門家

文化財とその周辺環境を保存・継承するためには、地域住民とともにその活動をサポートする専門家が必要である。専門家については、次の2つが考えられる

まずは、「学術的に文化財の調査・研究を進めていく専門家」である。大学の教授や博物館の学芸員等がこれにあたる。

次に、「文化財の活用の仕組みや周辺環境を活かしたグリーンツーリズムのような仕組みを構築する専門家」が考えられる。この専門家は、本町の場合、西会津町振興公社・にしあいづ観光交流協会・集落支援員・地域おこし協力隊などが該当する。

その活動例として、平成28年度においては、にしあいづ観光交流協会が主催した「奥川七觀音ウォーク」や同協会が西会津ふるさとファンづくり協議会と共に催しておこなった1泊2日のモニターツアー「幻の黒沢探検」などがあり、盛会に終了している。

その他、集落支援員が集落に働きかけて、戦後長らく途絶えていた極入集落の大聖歓喜天祭礼を復活させるとともに、奥川郷土史研究会による御堂の調査や勉強会を実施した。

4. 歴史文化マイスター

文化財の活用にあたっては、住民とともに地域の歴史文化の調査・研究を行いながら、学習と伝承の場をつくり、文化財の価値を明らかにしていく「歴史文化マイスター」の育成が必要である。またこのことは、次世代の文化財保護審議会委員の育成や、公民館講座や小中学校での講師の養成にもつながってくる。

5. 語り部

各地区で受け継がれてきた伝承や暮らしを次世代に語りついでいく「語り部」の育成が、地域や地区単位で必要である。例えば、遠野市の「語り部1000人プロジェクト」のような語り部の育成と活躍の場を創造し、1集落に1人の語り部がいて、どの集落にいっても何らかの話を聞くことができるようにならせてみたい。

まずは、町民一人ひとりが自分の集落について、1つでも歴史文化のことを学習し、語りつなぐことができるようになることが重要であり、それが町民のアイデンティティを醸成し、ふるさとを愛する心を育むことになっていく。

6. 観光ガイド

平成29年度からにしあいづ観光交流協会に「西会津町観光ガイドの会」ができ、現在活動を展開している。西会津町の歴史・文化・自然・伝統産業等について、観光客の要望に応えることができるよう会の充実を図っている。今後、「西会津町観光ガイド」養成講座の継続やガイドブックの作成、認

定試験の実施などに取り組んでいかなければならない。

7. 町と関係団体

(1) 文化財の担当部署

文化財の担当部署として、町教育委員会内に文化財課、あるいは現行の生涯学習課に文化財係を設置するなど、文化財行政の企画・立案等を行う部署が必要である。業務執行にあたっては、専門家である学芸員を配置し、町全体の文化財の調査・保存・活用を行うとともに、後述する「(仮称)にしあいづ歴史文化の館」の管理・運営にもあたることも考えられる。

(2) 町と関係団体との連携

町と先に述べた歴史文化マイスター・語り部・観光ガイド等が最大の力を発揮するためには、相互に協力し合う仕組み作りと人材確保・財源措置が必要である。このことについては、国や県・民間と連携し、各種補助・助成事業等を活用することが望ましい。

(3) 情報の一元化と発信

町と観光交流協会等の関係団体が連携して、文化財と関連情報・観光案内を一元的に情報発信する仕組みを強化する。すでに町や観光交流協会では、紙媒体のパンフレットだけでなく、ホームページ・ブログ・SNSを利用し、西会津町の文化財や観光案内を発信しており、今後も内容を随時更新し、利用者の利便を図っていかなければならない。

また、文化財や観光等の問い合わせに対応できる総合窓口を作る必要がある。その窓口には、問い合わせに対して適切な情報や観光ガイドを紹介することが必要とされる。

第2節 ネットワーク型「にしあいづ歴史文化の館」

西会津町の文化財は、町史編さん事業時に収集した古文書、埋蔵文化財等、その量は膨大である。これらの資料と未収集及び分散している文化財を展示・保管をするための多数の施設が必要である。これらの施設群をここでは「(仮称)にしあいづ歴史文化の館」と呼ぶこととする。

1. 基本的理念

にしあいづ歴史文化の館の使命として、まず先人の残したすばらしい文化遺産の収集・保存と調査・研究を行い、その成果を広く還元するための創意工夫した展示・活用することにより、学習の場として知識を普及させ、町民の学術及び文化の発展・高揚に寄与することがあげられる。

「歴史文化の館」とは？

西会津町のあらゆる文化財資料を収集・保存・研究・活用（展示）する施設群

2. にしあいづ歴史文化の館の構成

にしあいづ歴史文化の館は、中心的立場となる「中核の館」と各地区にある「地区の館」、小規模な展示を行う「(仮)ミニ館」の3種類を想定している。これらの館はネットワーク化することにより連携を密にし、各地区にある展示施設を周遊できるようにし、町全体が博物館となるよう計画する。

(1) 中核の館

① 内容・設置場所

- ・この館には、専門家である学芸員を設置して、調査・研究を行うとともに、文化財のうち指定文化財など特に重要なものを良好な環境で保管する。また専門家の立場から「地区の館」と「(仮)ミニ館」を補完・連携しながら、町の活性化に資する。
- ・町全体の歴史文化の概要を知ることができるよう、わかりやすい展示を行い、何度も足を運びたくなる内容とする。
- ・設置場所は、西会津町総合計画・基本計画(後期)にある「(仮)町民文化センター」かそれに代わる野沢地区内のいずれかの場所が望ましい。

(2) 地区の館

① 内容・設置場所

- ・地区の館は各地区的文化財を誇りとして展示・保管し、継承・活用による地域おこしを行う際の拠り所とする。この館の人的配置については可能な限り有人化を考慮し、適切な管理・運営を期する。
- ・設置場所として、道の駅にしあいづ・ふるさと自慢館・西会津町国際芸術村・奥川みらい交流館・旧新郷小学校・旧群岡中学校・旧黒沢小学校など各地区的公共施設や空き家が考えられ、それらの場所で文化財を展示・保管したものを「地区の館」と呼ぶこととする。

(3) (仮)ミニ館

① 内容・設置場所

- ・商店の店頭や農家庭泊の一角、軒先など小規模な空きスペースに展示したものを「(仮)ミニ館」と呼ぶことにする。
- ・(仮)ミニ館には、その家の昔の暮らしがわかるものや、先祖代々伝わり、よそに自慢できる「我が家家の家宝」を展示する。

3. 関係事業との連携

(1) 学校教育

学校教育に活用されるよう館内及び館外活動の充実を図る。町民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。

(2) 生涯学習

町民の知識・教養を高め、町民が誇りを持ち豊かな社会生活を営むため館内及び館外での活動の充

実を図り、学習機会や情報を提供する。

(3) 学術研究

大学、博物館など幅広い研究機関とのネットワークを強化して、学術面・技術面で協力し合い、町の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。

(4) 地域づくり

近隣の施設や様々な団体との連携を図りながら、歴史を通じた町内各地の地域づくりに貢献する。

4. 情報発信

各種資料の整理作業にあたっては、データのデジタル化を推進する。また、デジタルミュージアムを導入し、インターネットで展示品や収蔵品の内容を公開することにより、町の歴史・文化の魅力を県内外、海外にアピールし、当館の認知度を高め、交流人口の増大を図る。

また、無形文化財については映像として記録し、デジタルアーカイブ内に保存することとする。

5. 管理運営

目標の実現に向けた運営方針を策定し、館職員は方針に基づき効率的な運営を行うものとする。来館者への安全・安心の提供に努めるとともに常に来館者などの関心や目線に注意を向ける。

上記各施設に保管・展示する物品の選定や運営等に関することは、「(仮)にしあいづ歴史文化の館運営委員会」を設置して協議するものとする。

「歴史文化の館」の構成と役割

歴史文化の館 = **中核の館** + **地区の館** (分散ネットワーク型)

中核の館 「歴史文化の中心的施設、重要な文化財の保管・展示・活用・調査・研究」

〈場所〉町全体の歴史文化の館の中心的存在とし、立地する地区的館の役割も果たす。

〈内容〉1.重点的に保護・保存しなければならない文化財資料の保管・展示・活用

例：指定文化財・埋蔵文化財等

2.立地地区的様々な文化財資料の調査・研究

3.専門統括部署の設置による運営

〈施設イメージ〉新築もしくは旧校舎、空き家、空き店舗などの活用

地区の館・(仮)ミニ館

〈場所〉野沢、尾野本、群岡、新郷、奥川のうち、「中核の館」が立地しない各々の地区に拠点を設ける。

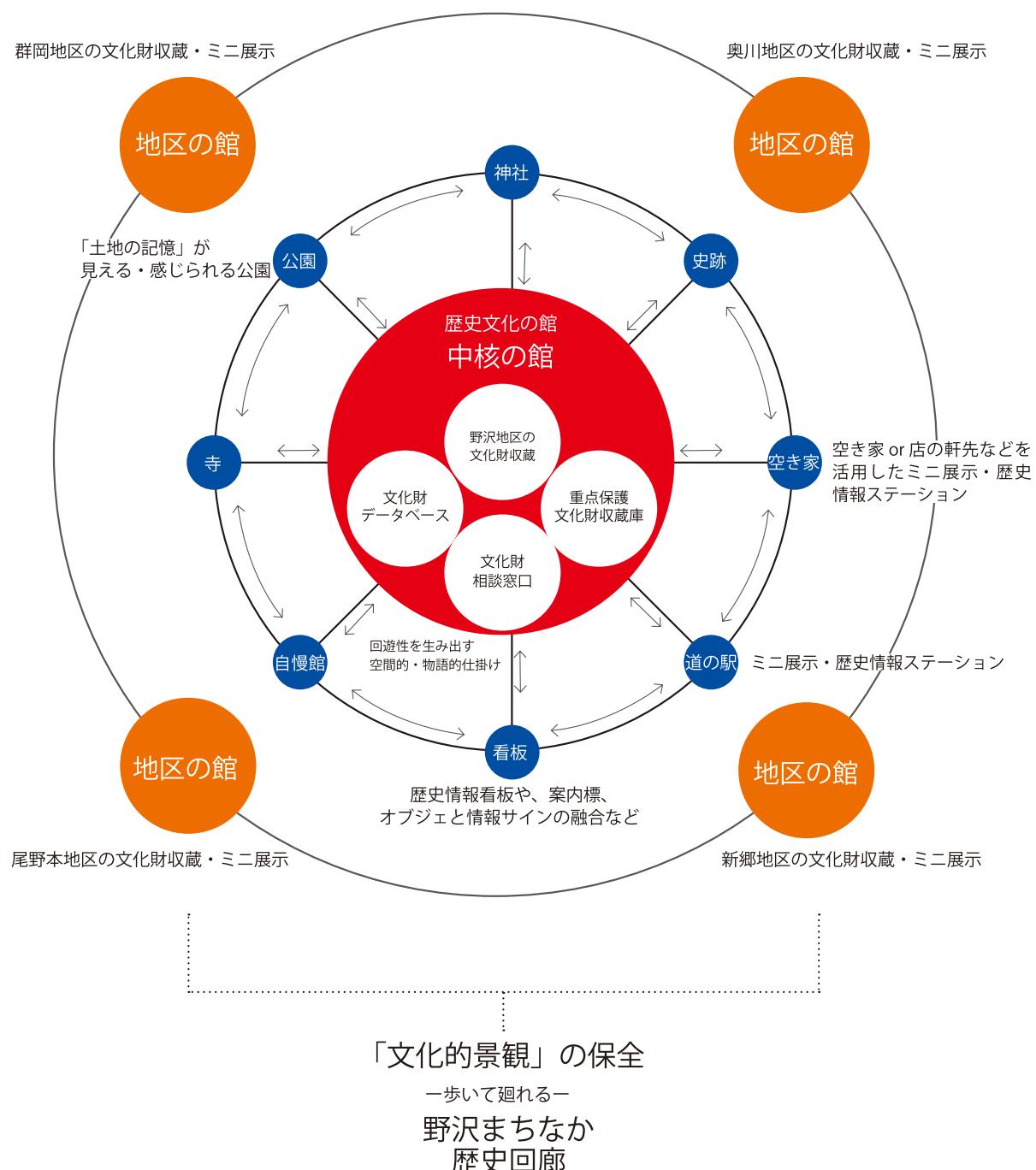
また、店舗の軒先、宿泊施設、古民家など町全体をミュージアムと見立てたミニ展示を展開する。

〈内容〉各地区的文化財資料のうち、中核施設に収蔵されないもの

〈施設イメージ〉旧校舎、空き家、空き店舗などの活用、軒先や土間等のミニ展示スペース

「歴史文化の館」の空間的構成 ～町全体が歴史と暮らしのミュージアム～

(例：野沢地区に中核となる館を設置した場合)



第3節 文化財活用の方針

文化財の活用は、基本的に所有者または管理者が行う。指定文化財は、原則公開ではあるが信仰の対象であったり、秘仏であったり、原則どおりにはいかない場合もあることから、最終的には所有者または管理者が判断する。次に記すのは一般的な場合の取扱いについてである。

また、文化財の活用は、地域おこしや観光面で期待されることから、教育委員会は運営上の組織を設置するなど、にしあいづ観光交流協会等の関係団体と連携を密にする必要がある。

1. 公開・閲覧・展覧

- ・指定文化財の公開は、国・県・町指定文化財については文化財保護法や県条例、町条例に基づき、所有者または管理者の管理のもと許可を得て公開することとする。
- ・指定文化財以外の文化財については、公開・閲覧は所有者または管理者の許可を得て公開・閲覧する。手続きについては、必要があれば教育委員会が指定する職員が相談に応じるものとする。
- ・町の所有・管理する文化財については、公開に望ましい環境の施設で公開する。個人所有の文化財についても所有者の承諾を得て公開することとする。

2. 貸出

- ・国・県・町指定文化財の貸出については、関係法令の定めるところにより所定の手続きをとるものとする。
- ・指定文化財以外の文化財の貸出については、所有者または管理者の許可を得るものとし、借用にあたっては借用書を提出するものとする。
*具体的には充分な信用があって万が一の場合の補償責任を有すると認められる個人・団体であれば、所有者の承認を得て貸出することを検討する。

3. 期間

- ・指定文化財の公開・貸出の期間については、国・県・町指定により関係法令等の定めるところによる。
- ・指定文化財以外の公開・貸出の期間については、1に準ずる。

4. 対象

- ・指定文化財が対象の場合

国・県・町指定文化財は文化財保護法等関係法令に照らすとともに、所有者・管理者の許可を得て、公開・貸出の条件が適正である場合に認められる。

- ・指定文化財以外が対象の場合

可能な範囲で指定文化財に準じた取扱いとする。

第4節 地域の歴史文化継承のための協働体制の強化

地域のくらしの中で生きる文化財は、そのくらしの作法や自然との付き合い方を含めた「地域の記憶」を、住民相互が「学び合い」「伝承していく」ための「場づくり」と、その内容を「蓄積」「発信」する仕掛けづくりをしていかないと維持・継承していくことはできない。その具体的方策として、過疎と高齢化が進行している地域である「天空の郷」(程窪・泥浮山・長桜・小杉山)や「西会津富士の郷」(小清水・漆窪)、「米寿米の郷」(山浦)の3ヶ所で、「福島県大学生の力を活用した地域づくり事業」を利用した大学のゼミによる地域遺産を活かすための「いきがい拠点を目指した集落活性化調査」が行われ、若者の斬新なアイディアを活かした地域活性化に取り組んでいる。また、出戸集落で福島大学と共に「聞き書き」を中心とした集落史『地域づくりコミュニティ史 出戸村－未来へ語り継ぐために－』を編さんした事例もある。

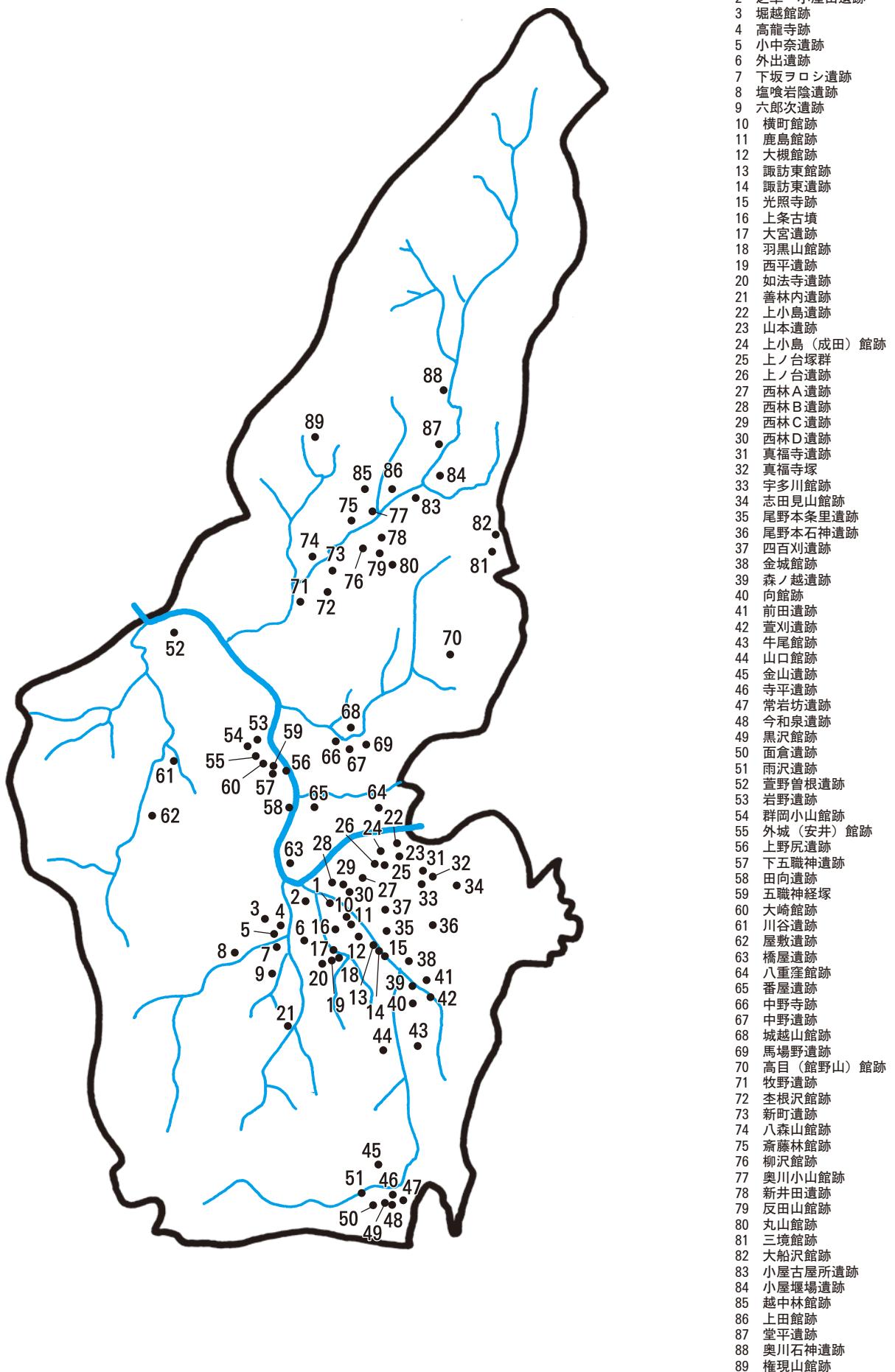
原則として、有形・無形に関わらず文化財を保存・継承していくことは基本的には担い手が行うべきだが、現実は厳しい問題がある。上述のような外部団体の支援活動があって保存・継承が可能となり、そのことが地域の活性化につながるということも考えられる。このことから、町は文化財の担い手である地域・個人・関係団体に支援を行う外部団体の情報提供や仲介等を行うことにより、町－担い手－外部団体の三者が手を携えて地域の歴史文化遺産を保存・継承する協働体制を構築していく必要がある。

別表1 西会津町の遺跡

No.	名称	所在地	時代	種別
1	猪ノ鼻遺跡	野沢字猪ノ鼻	縄文	散布地
2	芝草・小屋田遺跡	野沢字南松原・浦道添・小屋田	縄文	集落跡
3	堀越館跡	野沢字宇津野・館山	中世	城館跡
4	高龍寺跡	野沢字屋敷廻	中世	社寺跡
5	小中奈遺跡	野沢字小中奈	縄文・弥生	散布地
6	外出遺跡	野沢字外出浦	縄文・弥生	含有地
7	下坂ヲロシ遺跡	野沢字下坂ヲロシ	縄文	散布地
8	塩喰岩陰遺跡	野沢字塩喰家ノ上・雨沼	縄文～古代	洞穴
9	六郎次遺跡	野沢字田向	縄文・平安	集落跡
10	横町館跡	野沢字下小屋上	中世～近世	城館跡
11	鹿島館跡	野沢字鹿島前	中世	城館跡
12	大槻館跡	野沢字本町	中世	城館跡
13	諏訪東館跡	野沢字諏訪東	中世	城館跡
14	諏訪東遺跡	野沢字諏訪東	縄文	散布地
15	光照寺跡	野沢字諏訪東	中世	社寺跡
16	上条古墳	野沢字佛島	中世～	塚
17	大宮遺跡	野沢字大宮	縄文～近世	集落跡他
18	羽黒山館跡	野沢字如法寺	中世	城館跡
19	西平遺跡	野沢字如法寺	不明	不明
20	如法寺遺跡	野沢字如法寺	中世～	社寺跡
21	善林内遺跡	野沢字善林内	縄文	散布地
22	上小島遺跡	登世島字塩田・舟場上・馬場下	縄文	集落跡
23	山本遺跡	登世島字山本	旧石器	含有地
24	上小島(成田)館跡	登世島字馬場下・外城・馬場・林崎	中世	城館跡
25	上ノ台塚群	登世島字上ノ台	近世	塚群
26	上ノ台遺跡	登世島字上ノ台	平安	集落跡
27	西林A遺跡	登世島字西林	奈良・平安	散布地
28	西林B遺跡	登世島字西林	奈良・平安	散布地
29	西林C遺跡	登世島字西林	奈良・平安	散布地
30	西林D遺跡	登世島字西林	奈良・平安	散布地
31	真福寺遺跡	尾野本字寺前	中世	社寺跡・経塚
32	真福寺塚	尾野本字寺前	近世	塚
33	宇多川館跡	尾野本字館	中世	城館跡
34	志田見山館跡	尾野本字志田見山	中世	城館跡
35	尾野本条里遺跡	尾野本字一ノ坪・二ノ坪・三ノ坪	奈良・平安	未詳(溝状遺構)
36	尾野本石神遺跡	尾野本字石神	不明	散布地
37	四百刈遺跡	尾野本字四百刈・栗ノ宮	縄文・弥生?・平安	土坑群
38	金城館跡	尾野本字館沢、睦合字下新田・森越	中世	城館跡
39	森ノ越遺跡	睦合字森越	縄文	散布地
40	向館跡	睦合字中才、下谷字七石	中世	城館跡
41	前田遺跡	睦合字前田	縄文	散布地
42	萱刈遺跡	睦合字茅刈	縄文	散布地
43	牛尾館跡	下谷字内野山	中世	城館跡
44	山口館跡	下谷字正道屋敷	中世	城館跡
45	金山遺跡	下谷字金山	縄文	散布地

No.	名称	所在地	時代	種別
46	寺平遺跡	下谷字寺平	縄文	散布地
47	常岩坊遺跡	下谷字常岩坊	縄文	散布地
48	今和泉遺跡	下谷字今泉	縄文	散布地
49	黒沢館跡	下谷字寺平	中世	城館跡
50	面倉遺跡	下谷字面倉	縄文	散布地
51	雨沢遺跡	下谷字大山口	縄文・弥生	散布地
52	萱野曾根遺跡	群岡字蟹沢	縄文・近世	散布地
53	岩野遺跡	群岡字岩野	縄文	散布地
54	群岡小山館跡	群岡字小山	中世	城館跡
55	外城（安井）館跡	群岡字外城	中世	城館跡
56	上野尻遺跡	上野尻字東林崎・西林崎・下沖ノ原	縄文・弥生	土坑群
57	下五職神遺跡	上野尻字下五職神	縄文	散布地
58	田向遺跡	上野尻字田向	縄文～平安	散布地
59	五職神経塚	上野尻字下五職神	中世	経塚
60	大崎館跡	上野尻字華閥	中世	城館跡
61	川谷遺跡	宝坂大字宝坂字川谷平	縄文	散布地
62	屋敷遺跡	宝坂大字屋敷字屋敷	不明	散布地
63	橋屋遺跡	新郷大字三河字橋屋十二道東・橋屋十二道西	縄文	散布地
64	八重窪館跡	新郷大字三河字平・高稻場・館ノ内	中世	城館跡
65	番屋遺跡	新郷大字三河字番屋	不明	散布地
66	中野寺跡	新郷大字豊洲字中野	中世	社寺跡
67	中野遺跡	新郷大字豊洲字中野	縄文	散布地
68	城越山館跡	新郷大字豊洲字権現沢	中世	城館跡
69	馬場野遺跡	新郷大字笛川字馬場野	縄文	散布地
70	高目（館野山）館跡	新郷大字富士字館野山	中世	城館跡
71	牧野遺跡	奥川大字豊島字牧野	縄文	散布地
72	杁根沢館跡	奥川大字豊島字杁根沢	中世	城館跡
73	新町遺跡	奥川大字豊島字新町	縄文	散布地
74	八森山館跡	奥川大字元島字思角	中世	城館跡
75	斎藤林館跡	奥川大字飯里字斎藤林	中世	城館跡
76	柳沢館跡	奥川大字飯里字柳沢	中世	城館跡
77	奥川小山館跡	奥川大字飯里字小山沢	中世	城館跡
78	新井田遺跡	奥川大字飯里字家ノ下	中世	散布地
79	反田山館跡	奥川大字飯里字反田	中世	城館跡
80	丸山館跡	奥川大字飯里字丸山	中世	城館跡
81	三境館跡	奥川大字大綱木字三境	中世	城館跡
82	大船沢館跡	奥川大字大綱木字館山	中世	城館跡
83	小屋古屋所遺跡	奥川大字飯沢字古屋所	縄文	散布地
84	小屋堰場遺跡	奥川大字飯沢字堰場	縄文	散布地
85	越中林館跡	奥川大字飯里字越中林	中世	城館跡
86	上田館跡	奥川大字飯沢字上田	中世	城館跡
87	堂平遺跡	奥川大字飯根字堂平	縄文	散布地
88	奥川石神遺跡	奥川大字飯根字石神	不明	散布地
89	権現山館跡	奥川大字高陽根字砂田	中世	城館跡

西会津町の遺跡分布図



別表2 指定文化財の現況調査

(平成27年12月調査時点)

指定区分	種 別	名 称	特 記 事 項 (破損の状況等)
国	特別天然記念物	ニホンカモシカ	—
国	建 造 物	円満寺観音堂	屋根の葺き替えから10年が経過しており、軒先とぐしの部分から傷みが始まっている。
国	絵 画	紙本著色蒲生氏郷像	福島県立博物館に寄託。
県	建 造 物	如法寺観音堂附仁王門	外観に異常は見受けられないが、経年劣化が進んでいる。
県	彫 刻	木造聖観音立像 木造不動明王立像 木造毘沙門天立像 木造金剛力士立像	木造聖観音立像、木造不動明王立像、木造毘沙門天立像は経年により光背等が破損している箇所があるので、今後修復が必要。
県	彫 刻	木造地蔵菩薩坐像	福島県立博物館に寄託。
県	考 古 資 料	上野尻・五職神経塚出土経筒 附 石製外容器 3口	福島県立博物館に寄託。
県	歴 史 資 料	杉木之覚碑 不時囲杉木組定御請(泥浮山) 不時囲杉木組定御請(上野尻)	本体そのものに異常はないが、覆屋に破損箇所があったので修繕した。 保存状態に問題なし。 保存状態に問題なし。
県	有形民俗資料	旧福聚院修験資料	所有者が福島県立博物館への寄託を希望している。 (→H29.12.15、県立博物館に寄託)
県	天 然 記 念 物	如法寺のコウヤマキ	特に異常は確認されなかった。
県	有形民俗資料	旧修験佐藤家所蔵修験資料	保存状態に問題なし。
県	古 文 書	宮城家文書	保存状態に問題なし。
県	天 然 記 念 物	大倉山のコウヤマキ自生地	特に周辺での開発行為は見受けられなかった。
県	天 然 記 念 物	束松塩坪層の漣痕	指定時とくらべて、漣痕化石部分の崩落が進んでいる。
町	絵 画	日本志東山 陸奥出羽国図	保存状態に問題なし。
町	彫 刻	岩屋虚空蔵菩薩坐像・脇侍	虚空蔵菩薩の左手・光背は破損しており、仮付けの状況。脇侍の毘沙門天の左手や不動明王の持ち物など欠落している部分がある。
町	典 籍	龍泉寺鉄眼判大般若経	保存状態に問題なし。
町	絵 画	龍泉寺絹本著色仏涅槃図	本紙左上部の絵面に横切れが2ヶ所ある。表具も傷みが見受けられる。平成元年発行の『西会津町の指定文化財』の写真と比較するとこの絵面の横切れが拡大している。また、色も褪せている。
町	絵 画	龍泉寺絹本著色十六善神像	本紙には目立った傷みはないが、掛け軸の天(上)や風帯に切れがある。
町	有形民俗資料	金藏寺歡喜天社絵馬	平成元年発行の『西会津町の指定文化財』の写真と比較して、色が褪せている。色褪せが進行しないような対策が必要。
町	天 然 記 念 物	大久保の念仏杉	平成27年に枝折れした部分に穴が見える。
町	天 然 記 念 物	安座・堀越山のコウヤマキ	特に周辺での開発行為は見受けられなかった。
町	歴 史 資 料	安藤有益関係資料一括	保存状態に問題なし。
町	歴 史 資 料	真福寺大般若波羅蜜多経巻 第一・同經典裏打文書	福島県立博物館に寄託
町	彫 刻	西光寺木造阿弥陀如来坐像 脇侍・胎内仏	保存状態に問題なし。
町	工 芸 品	木製花瓶一対	鶴ヶ城に寄託。

指定区分	種 別	名 称	特 記 事 項 (破損の状況等)
町	天 然 記 念 物	宇陀帰山大山祇神社参道杉並木と境内社木	特に異常は確認されなかった。
町	天 然 記 念 物	糠塚山の楊貴妃桜	幹が折れ、ほとんど原形をとどめておらず、枯死寸前。今後指定解除に向けた検討が必要。 (→H29.11.16付で指定解除)
町	天 然 記 念 物	安座赤城神社の社木 コウヤマキ・アスナロ・モミ	モミノキの穴を塞いでいた樹脂が取れそうになっている。根の1本も穴があいている。
町	史 跡	野沢諏訪神社前一里塚	2基1対の1基のみが保存されている。
町	有 形 民 俗 資 料	屋敷人形芝居道具一式	現在、西会津小学校で保管し、伝統クラブで使用している。衣類に傷みがある。
町	工 芸 品	如法寺金口（鰐口）	桐箱に保管されており。破損等問題事項なし
町	工 芸 品	如法寺観音堂高欄擬宝珠	保存状態に問題なし。
町	工 芸 品	良寛筆模刻「松尾大明神」社額	西会津町教育委員会に寄託。
町	史 跡	大杉山村慶長地震遭難者供養塔	表面の剥離がひどく、文字の解読は困難であるが、お堂の中にあるため進行はおさえられている。今後は、保存処理や復元品の作成等が必要。
町	有 形 民 俗 資 料	龍藏寺薬師瑠璃光如来おみくじ用具一式	くじ箱、くじ箪笥、版木について確認、破損等問題事項なし。
町	工 芸 品	如法寺大般若經唐櫃	蓋付き、蓋なし各1体を確認。破損等問題事項なし。
町	工 芸 品	如法寺御正体・銅像聖觀音坐像 懸仏	破損等問題事項なし。
町	工 芸 品	旧善應寺御正体・銅造薬師如來坐像懸仏	ケースに入れて保管しており、破損等問題事項なし。
町	史 跡	高目村石造名号塔婆（板碑）	破損等問題事項なし。
町	史 跡	西光寺宝篋印塔	頭部の折れ、角の欠けがあるが破損等問題事項なし。
町	史 跡	樺木峠「上様御小休所」碑	破損等問題事項なし。
町	史 跡	宝川の一里塚	本体南側の草木刈り払いの必要がある。
町	天 然 記 念 物	地境の柿の木	老木で、幹の大部分が空洞化により欠落しており、積雪で倒木の危険性があるので、頑丈な添え木で補強した。
町	天 然 記 念 物	下條の普賢象桜	平成27年春の大雪で上部の幹が折れ、体部の枯れ部分がくずれた。内部に生きている幹が1本あるが、以前の姿は想像できないほど形状が変わってしまった。
町	彫 刻	善光寺式銅造觀音菩薩立像 善光寺式銅造勢至菩薩立像	破損等問題事項なし。
町	史 跡	享保 句碑	破損等問題事項なし。
町	歴 史 資 料	慶長八年大杉山村御水帳	保存状態は問題なし。
町	天 然 記 念 物	安座弘法岩周辺の植生	特に周辺での開発行為は見受けられなかった。
町	天 然 記 念 物	ギフチョウ	気候により変動はあるが、確認地が増。(町内の捕獲は禁じられている。)
町	天 然 記 念 物	キマダラルリツバメ	気候により変動はあるが、確認地が増。(町内の捕獲は禁じられている。)

別表3 未指定文化財等の現況調査

野沢地区

No.	名 称	種 别	自 治 区	備 考
1	大槻館跡	城館跡	野沢本町	館の中心部には遍照寺会館、遍照寺、能化上人堂、納骨堂が建っている。土壘・堀の跡が比較的よくわかる。大槻太郎左衛門居館跡。
2	諏方神社 鉄火裁判	歴史資料	野沢本町	松尾村と繩沢村の山境争いの審判を諏方神社境内で鉄火をとることによって行われた。
3	横町館(荒井館) 跡	城館跡	野沢原町	発掘調査中。堀切は埋められているが長谷川に突き出している三角形の地形の保存は良好。
4	野沢初市		野沢本町・野沢原町	1月13日 駅前通り商店街で実施しているが年々衰退。藩公認六斎市の一番初めの市。
5	草刈り踊り・甚句踊り	民俗芸能	野沢本町・野沢原町	保存会が存在する。草刈り踊りは夏祭りで披露している。
6	羽黒山館跡	城館跡	西平	現雷山公園。保存は良好。年代等不詳であるが館主は石川冠者と伝わる。
7	芝草・小屋田遺跡	縄文期集落跡	芝草	現在は国道、県道、畠。概況がわかるように説明板が設置された。
8	小中奈遺跡	縄文弥生遺跡	堀越	畠地。遺物は個人蔵、石包丁のみが鶴岡市財団法人致道博物館に保管。
9	中門造り農家	建造物	堀越	取壊し改築などの行為が行われた形跡がない。
10	蔵座敷	建造物	堀越	祝祭など必要な都度使用。普段は畠を上げて物置としている。
11	大山祇神社・太々神楽	信仰	大久保	文月のお祭りに太々神楽が行われている。
12	地神楽	民俗芸能	安座	継承されていないが、道具・社壇は保管されている。
13	弘法伝説と弘法岩屋	伝説・景勝	安座	弘法大師伝説と岩窟で、岩屋までの道はよく整備されている。見晴らしは絶景。
14	安座周辺の奇岩	景勝	安座	多くの奇岩があるが現在遠望できるのは夫婦岩のみである。
15	狐物語敵討稻荷理聖記	伝説	野沢近在	狐の敵討ち物語であるが、ほとんど知られていない。
16	野澤宿・越後街道	宿場・街道	芝草・原町・本町・芹沼	越後街道三大宿場の野澤宿と越後街道であるが、面影となるものが乏しい。
17	聖人様(本海壇)伝説	伝説	原町	野澤宿の大火に関連する伝説で、本海という人の供養塔があるが荒れている。

尾野本地区

No.	名 称	種 别	自 治 区	備 考
1	夜泣き地蔵尊	信仰	森野	8月21日に祭礼が行われる。平成26年に有志により復活。
2	百万遍	民俗	萱本・樋ノ口	2月11日に実施され継続している。
3	人形様送り	民俗	萱本	2月11日に実施。
4	薬師堂、二つ子参り	信仰	萱本	薬師堂、子安觀音、子育石などが残り二つ子参りが行われていた。
5	縄沢肝煎の青津家	建造物	萱本	旧肝煎家の建物。徐晏波の書がある。
6	養蚕所	建造物	萱本	五十嵐家蚕室及び繭糸工場跡、建造物の破損がみられる。
7	管粥の神事	信仰	松尾	昭和41年で廃止。映像により保存される。
8	松尾神社	信仰	松尾	酒造の神として、お水取りなどの神事が行われている。
9	観音寺の大イチョウ	自然	尾登	旺盛な成長を続けている。
10	尾登山観音寺	彫刻	尾登	現在は阿弥陀如来像のみが残る。
11	オサイ神様	信仰	上小島	お産の神様として村人により信仰されている。
12	疊石・筍岩	景勝	上小島	阿賀川左岸に疊石がある。右岸に筍石がみられる。
13	山本遺跡	考古資料	上小島	旧石器時代の遺跡として保存されている。
14	上小島遺跡	考古資料	上小島	広範囲にわたり、発掘以後そのままの現状、今後の整備が望まれる。
15	上ノ台遺跡	考古資料	上小島	奈良、平安期の住居群などが確認された。
16	甲石、大畠周辺の奇岩	景勝	縄沢	飛観音、男根岩、甲石などが残るが一部崩壊している。
17	女房沢と機織り滝、雨降り滝	伝説	青坂	伝説の地として残る。
18	一貫清水	伝説	泥浮山	伝説の地として残される。
19	白沼	景勝	小杉山	慶長の大地震により生じた沼。
20	蝦夷神社	信仰	黒沢	義経伝説のある神社。祭りは現在9月15日に実施される。
21	薬師堂	彫刻	黒沢 面倉	薬師如来像が残る。
22	不動堂	彫刻	黒沢 大滝	不動明王像がある。堂は傾いている。
23	黒沢鉱山跡	鉱山	黒沢	終戦になり休山。鈍子岩、五万洞など鉱山跡。選鉱所跡などみられる。 天正時代に発見され寛永時代には鉱夫6000人を数えたと伝える。
24	虫送りと鳥追い	民俗	黒沢	虫送りは現在も実施。鳥追いは10~20年前にやめている。
25	早乙女踊り	民俗芸能	黒沢	現在も続いている。
26	発電所跡	史跡	黒沢	町で最も古い水力発電所跡地がそのまま残っている。
27	ブラジル移民		黒沢	昭和31年の水害の後、9世帯58名のブラジルへの移民が語り継がれる。
28	根深地蔵	伝説	出ヶ原	紙漉きの村人との伝説がある。
29	紙漉き・出ヶ原和紙	歴史資料	出ヶ原	会津藩物産として生産されたが廃絶。出ヶ原和紙再生プロジェクトにより再現された。
30	赤羽根鉱山跡	鉱山	山口	終戦で休山。出ヶ原鉱山の採石の鉱石として県立博物館に保管。
31	束松峠	街道	軽沢	峠道はあまり整備されていない。

群岡地区

No.	名 称	種 别	自 治 区	備 考
1	阿賀川舟運・船着場跡	歴史資料	上野尻	その他舟運に係る役所跡、屋敷跡が残る。(舟場と呼ばれる家等)
2	上野尻遺跡	考古資料	上野尻	縄文から弥生時代にかけての遺跡。現在は畠地。
3	川谷遺跡	考古資料	白坂	縄文期の遺跡で石斧、石鏃と出土する。現在は畠地となっている。
4	道具の年とり	民俗	白坂	今もやっている家もある。
5	百万遍	民俗	白坂	2月の第1日曜日に実施。
6	屋敷万歳	民俗芸能	屋敷	継承されていない。
7	最上岩松の墓石	史跡	屋敷	そのまま残されている。
8	弘法様稻荷様風神様愛宕様	信仰	屋敷	ムラの中の観音堂は新しくしたが石の祠などは入っていない。その他のものは昔のまま残る。
9	男滝女滝と不動信仰	信仰	熊沢	参道は荒れて所どころ崩れている。
10	オンバ様	信仰	熊沢	平成18年に建物を新しくした。
11	オパール鉱山	鉱山	屋敷	閉山した。
12	車峠と旧越後街道	街道		イザベラバードの旅行記にある景勝地。白坂側の街道は一部が崩れ通行不可となっている。
13	野尻郡役所跡	歴史資料	上野尻	旧群岡中学校跡地となる。
14	歳の神	民俗	上野尻	昔ながらの木組み、わらかざり、年男が燃えさかる木組みに登る。
15	節分豆まき	民俗	上野尻	子供たちが集落の1軒1軒をまわり、座敷に上がりまるくなって豆をひろう。 「豆まかせ～」他に菓子などをもらう。「上野尻のハロウィーン」。
16	諏訪壇	信仰	上野尻新村	諏訪神社(上野尻)の別院?跡地とされる場所がある。
17	丑ヶ山鉱泉跡	史跡	上野尻 牛ヶ山	昭和初期まで営業していた鉱泉跡が遺る。
18	水神・秋葉神社	信仰	上野尻	沢入の堤にあり。
19	大沼水路	史跡	上野尻	芹沼の「大沼」より上野尻地区に農業用水を引く水路。 水源のない上野尻地区にとって唯一の水路。昔から改良が加えられ、現在も毎年管理作業が続けられている。
20	諏訪神社	史跡	上野尻	村社。歴史あり。
21	街なみ (旧越後街道)	史跡	上野尻	中央に堀割りがあった。屋敷割に宿場町であった様子がみられる。
22	石本雄也家文書	考古資料	上野尻	肝煎家の文書が保管される。
23	蟹沢館跡	史跡	上野尻・ 下野尻	館跡といわれているが未調査。
24	須刈岳	信仰		雨降らしの山といわれている。毎年山開きを行なっている。
25	外城(安井)館跡	城館跡	下野尻	字北裏に「まとば」と呼ばれる家がある。
26	銚子ノ口	自然	下野尻	洪水により遊歩道の一部が破損。
27	根拆神社例大祭	信仰	下野尻	10月第2土曜、日曜
28	大崎館跡	城館跡	下野尻	薄石見守頼包領す。両野尻の地頭 薄兄弟 天正年代(1573~92)
29	小山館跡	城館跡	下野尻	小山宮内少輔政能住す

新郷地区

No.	名 称	種 别	自 治 区	備 考
1	金物の正月	民俗 風俗	高目	今でもやっている家がある。正月15日 金物やかざり餅を供える
2	歳の神	信仰	高目	かつて3本をたてていたが、今は1つにまとめている。
3	おんば様	信仰	高目	そのまま残る。
4	大清水	史跡	高目	高地であるが豊富な湧き水が今もある。
5	富士山 富士神社	信仰	小清水	胎内くぐりにより生まれ変わることができると伝える。祠が新しくされた。
6	木地師のお墓	歴史資料	荒木・漆窪	特色ある墓碑が残る
7	化ケ物沢伝説	伝説	樟山	いくつかの説が残る。
8	紙漉き	歴史資料	樟山	現在行っている家はない。手順等は記録として残される。
9	城越山館跡	城館跡	滑沢	雑木繁茂している。
10	中野寺跡	史跡	滑沢	佐原義連により滅ぼされたと伝える「中野三十坊」跡地。現在は畠地と杉林となる。
11	滝坂の石工	彫刻	滝坂	石造物巡りが検討される。
12	日本一の地すべり地帯	自然	滝坂	銚子ノ口北部の地すべり。割れた岩から向こうの景色が見える。
13	八重窪館跡	城館跡	八重窪	拡幅工事のため変容した箇所がある。
14	三河万歳	民俗芸能	橋屋	台本は貸したまま戻っていない。大黒天の面と小槌、扇子は保管される。
15	新郷六観音巡り	信仰		一部御堂の整備が進められている。

奥川地区

No.	名 称	種 别	自 治 区	備 考
1	百万遍	民俗	山浦・塩など	杉山自治区も行う。29年から中止とした村もある。
2	地蔵講	民俗	塩	子どもがいないため形を変えて継続している。
3	新町遺跡 出土 石棒・石皿	考古資料	新町	遺跡は現在中学校跡地になっている。出土品は保管されている。
4	サツキ	民俗	中の沢	正月に行う予祝行事の1つ。現在行う家はない。
5	オシンメイ様	信仰	中の沢	2体のオシンメイ様がある。
6	塔婆様 六十六部巡礼 供養塔	史跡	松峯	享保6年建立の供養塔。風化が著しく判読が困難となっている。
7	地蔵様(地蔵講)	民俗	中町	現在も毎年3月と8月に実施されている。
8	地蔵講・熊野講・巳待講・庚申講・古峰ヶ講	民俗	梨平・小山など	梨平自治区のみ熊野講が継続されている。用具類は残されている。
9	反田山他山城跡	史跡	小山・真ヶ沢他	権現山・反田山・小山・越中林・杁根沢など山城跡が遺る。
10	柳沢館跡	史跡	真ヶ沢	中世城館跡が比較的明瞭に遺る。
11	疱瘡神祭	信仰	梨平	20年前まで行っていた。外3集落に祠が残る。
12	大黒様のオカタ迎え (恵比須講)	民俗	小屋	現在は行っていない。
13	お聖天様とおんば様	信仰 建造物	極入	平成26年度に50数年ぶりに復活した。
14	木地師と狩猟の村	民俗	弥平四郎	道具が保存される。保管の依頼がある。
15	道具の年取り	民俗	小綱木	現在も行う家がある。
16	花立峠	街道	小綱木	飯豊山神社遥拝所。花立石の一部がある。外に極入・宮野に遥拝所がある。
17	馬頭観音	彫刻	大舟沢	馬頭観音像の保管状況は良好。御堂の屋根が破損している。
18	越後裏街道 中追馬塩の道	街道		喜多方と津川を結ぶ塩の道、もう1つの「奥川通り」古道。記録が求められる。
19	花塚 山陵塚・不求庵跡	歴史資料	向原(吉田)	宮城三平に関する遺構。保存状態はあまり良くない。
20	奥川軌道跡	史跡		明治末から昭和30年代までの軌道の跡が残る。
21	奥川七観音巡り	信仰		平成28年から「七観音巡り」がはじまる。
22	堂平遺跡 出土 鏕(やじり)	考古資料	極入	出土品は個人宅で所有される。

本書に掲載している地図のうち、国土地理院発行の地形図及び地勢図を使用したものについては下記のとおりである。

- 20万分の1 地勢図
 - ・新潟…P 7
- 5万分の1 地形図
 - ・野沢…P46,49,67,70,72,79,89,92,95,98,101
 - ・大日岳…P79,95,98,101
- 2万5000分の1 地形図
 - ・野沢…P60,89,92
 - ・柳津…P54,58
 - ・徳沢…P65
 - ・飯里…P73,76

表紙写真

左上：黒沢の早乙女踊り（尾野本地区）

右上：富士の歳の神（新郷地区）

中央：上野尻発電所の桜（群岡地区）

左下：奥川第一発電所（奥川地区）

右下：野沢の初市（野沢地区）

西会津町歴史文化基本構想

平成30年（2018）3月31日

発行・編集

西会津町教育委員会
〒969-4406 福島県耶麻郡西会津町野沢字原町乙2234番地1
TEL 0241-45-3244 FAX 0241-45-3470
E-mail komin@town.nishiaizu.fukushima.jp

印刷・製本

三洋印刷株式会社
〒965-0053 福島県会津若松市町北町上荒久田鈴木163番地
TEL 0242-24-3667(代) FAX 0242-24-3669

